

ストローブ＝ユイレに影響を与えた伝説的作品を、EYE(オランダ映画協会)所蔵の16ミリフィルムで国内初上映



アテネ・フランセ文化センター2012年7月

New Century New Cinema vol.4

「バルーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677」+「コルネイユ＝ブレヒト」

2012年7月14日(土)|会場:アテネ・フランセ文化センター(御茶ノ水)

Collection EYE Film Instituut Nederland

■上映作品

コルネイユ＝ブレヒト Corneille – Brecht 2009

監督:ジャン＝マリー＝ストローブ

バルーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677 Uit het werk van Baruch d'Espinoza 1632-1677 1973

監督:フランス・ファン・デ・スターク

主催 ■ New Century New Cinema アテネ・フランセ文化センター

協力 ■ EYE Film Institute Netherlands



Stefan van de Staak

Heddy Honigmann

東京国立近代美術館フィルムセンター



New Century New Cinema vol.4

「パールーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677」+「コルネイユ=ブレヒト」



上映作品



【参考上映】

コルネイユ=ブレヒト

Corneille – Brecht

2009年(78分 ※26分×3ヴァージョン) デジタル作品

監督:ジャン=マリー=ストロブ

撮影:クリストフ=クラヴェール

副題「ローマ、私が恨む唯一のもの」。コルネリア・ガイサーがコルネイユの「オラース」第4幕第5場と「オトン」の短い一節を読む。その後、ブレヒトのラジオ劇「ルクルスの審問」が読まれる。編集の異なる3ヴァージョン上映。

パールーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677

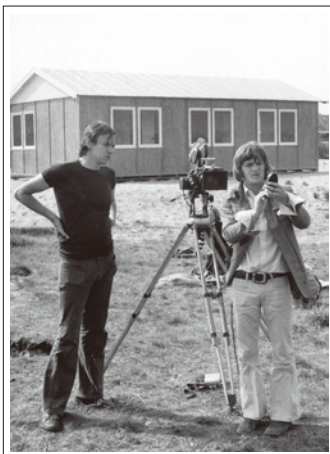
Uit het werk van Baruch d'Espinoza 1632-1677

1973年(31分) 16mm作品

監督:フランス=ファン=デ=スターク

撮影:ロブ=ルメル、ディルク=ティーンストラ

ストロブ=ユイレ『すべての革命はのるかそるかである』にヒントを与えた伝説的作品。スピノザ「エチカ」抜粋と『オトン』を思わせる鋭角的な朗読によるアムステルダム「現在」(街頭に炸裂するノイズ、風、そして朗読者自身の誤りを含む)との出会い。



Collection EYE Film Instituut Nederland

スケジュール

7月14日(土)

15:40-「コルネイユ=ブレヒト」(78分)

17:30-「パールーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677」(31分)

+講演:赤坂太輔(映画批評家)

※「コルネイユ=ブレヒト」は日本語字幕付き。「パールーフ・デ・スピノザの仕事 1632-1677」は日本語字幕無し。

※各回入れ替え制

料金

一般=1回券1000円/2回券1800円

アテネ・フランセ文化センター会員=800円

※アテネ・フランセ文化センター会員入会をご希望の方は登録が必要になります。

登録料:一般=1500円/アテネ・フランセ学生1000円(2013年3月まで有効)

会場&お問い合わせ

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台2-11

アテネ・フランセ4F

(JR/地下鉄 御茶ノ水・水道橋

駅徒歩7分)

TEL. 03-3291-4339 (13:00-20:00)

<http://www.athenee.net/culturalcenter>

